

熊本県看護協会 広報誌

看護くまもと

— KANGO KUMAMOTO —



日本看護協会キャラクター
「かんごちゃん」熊本県バージョン

Contents

- ▶ 令和5年春の叙勲・熊本県看護管理者会 / 2p
 - ▶ 高校生の一日看護体験・看護学生体験 / 3～5p
 - ▶ 令和5年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修報告 / 6p
 - ▶ タスク・シフト/シェア / 7p
 - ▶ へき地医療を支える特定行為看護師の役割 / 8p
 - ▶ へき地医療オンライン診療車について / 9p
 - ▶ 新たな災害支援ナースの仕組み・令和6年度要望書提出 / 10p
 - ▶ ナースセンターからのお知らせ / 11p
 - ▶ 事務局だより / 12p



LINE
熊本県看護協会公式



manaable
研修システム

会員数	保健師	479名
	助産師	379名
	看護師	13,435名
	准看護師	1,078名
	計	15,371名

(令和5年11月1日現在 会費納入者数)

受章おめでとうございます

令和5年春の叙勲 瑞宝単光章

多田隈 和子 様

(元熊本大学医学部附属病院 副看護部長)



令和5年度 熊本県看護管理者会

特別講演 「医療・看護のDXとは ～ Society5.0時代のDX～」

講師 宇都 由美子 氏

鹿児島大学病院医療情報部部長・特任副院長・特任教授

日時 令和5年10月13日(金) 13時30分～16時

場所 熊本県看護研修センター 3階大研修室



「看護管理者会(中央開催)」は、令和4年度より「熊本県看護管理者会」と名称を改め、看護を取り巻く様々な課題について情報共有し、考える機会とするために開催しています。今年度は、看護管理者が、医療・看護におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)について理解を深めるとともに、看護領域の業務や教育の変革等に対応する現場の在り方について考える機会とすることを目的に開催し、県内の医療機関、看護師等養成所などより、85名が参加しました。

ウィズコロナからアフターコロナとなり、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響で、自主点検という代替調査であった適時調査が、2023年度より本格的に立入調査が再開されたが、適時調査は病院経営にとって最も重要な調査項目が定めてあり、特に「様式9」は改めて重要な点検項目の一つであることを示された。2003年に急性期病院にDPCが導入され、カルテの電子化などIT化が進み医療情報が標準化、透明化されてきた医療現場では、病院マネジメントに大きな変化が生じてきており、看護師が制度理解を深めDPCを使いこなすことが重要である。また、Society5.0で実現する医療・介護における新たな価値の事例として、「症状が悪くなる前に知りたい。要介護でも自分一人で楽しく生活したい」という対象の課題に対し、医療現場の情報やリアルタイムな生理計測データをAIが解析することで、ロボットによる支援で快適な生活を送ることができ、医療現場では様々な負担軽減が図れる。また、リアルタイムの自動健康診断により健康の促進を図ることができ、病気の早期発見ができることで最適な治療が受けら

れるような時代になることを紹介されました。今後、更にAIによる様々なデータの解析により新たな価値の創造が期待できる中において、看護の現場でもイノベーションが起こりうる。例えば、【患者の利益】患者の状態を考慮した公平性のある退院患者推奨リストの提案。【業務の効率化と負担軽減】病床調整に係る業務時間の短縮と病床管理に対する看護管理者の負担軽減。【病院収益】病床運用の適正化による病院経営改善への貢献などが成果として期待されることであるなど、医療現場の課題に対し実際の取り組みを通してわかりやすい講義をしていただきました。

参加者は、これから電子カルテを導入する病院もあり様々でしたが、その後の意見交換では今後を見据えた病院の在り方やデータを活用した経営への参画など、他施設の意見を聞くことができた有意義な時間となったなどの意見が聞かれました。

アンケートでは、“DX、IT化の先にあるものを明確にすることが経営陣やスタッフの理解を得ることに繋がると学んだ”“DX活用でこれからの経営に取り組むための看護管理者の話であり、看護師不足への対処ができることがわかった”また、“業務改善は単にAIを取り入れただけで改善されるわけではなく、使う人が正しく運用しないと効果があがらない、スタッフへ正しく周知することが必要”など、多くの意見が聞かれました。

今後も県看護協会では、看護管理者の連携強化、看護現場における課題解決に活かすことのできる取り組みを進めてまいります。

文責 常務理事 大道友美

令和5年度 高校生の一日常護体験

参加した 高校生の声

くまもと森都 総合病院

「看護師の姿」

熊本県立済々黶高等学校 2年 加嶋 優衣

私は、今回「高校生の一日常護体験」をくまもと森都総合病院でさせていただきました。私は、小さい頃から看護師になりたいという夢があり、高校生になった今でもその夢は変わっていません。しかし、私が今回看護体験をするまでは、看護師という仕事は大変で、忙しく患者さんのサポートをするという抽象的なイメージしかありませんでしたが、実際に現場で様々なことを体験させていただいて、具体的なイメージをもつことができました。

体験の中では、心電図をとったり、血圧を測ったり、防護服を着たりとなかなか普段体験することができないことも経験させていただきました。防護服はとても暑く、この防護服を着て仕事をされている看護師の方はとても大変だなと感じました。

私がこの体験の中で強く感じたことは、看護師の方々は、常に患者さんのことを考え、様々なことに気を配っているということです。ベッドのシーツをかえるときにも患者さんが引っかけないようにシワを伸ばしたり、しっかり中に折りこんだり、声かけをするなど小さなことでも気を配られていることが分かりました。

今回、実際に現場で様々な体験をさせていただき、看護師という仕事にさらに興味を持つようになり、看護師になりたいという気持ちが強くなりました。看護師という仕事は、決して楽な仕事ではなく、命に関わる大変な仕事ですが、とてもやりがいのある仕事だと改めて思いました。私は、将来、患者さんに安心してもらえるような看護師になりたいです。

今回「一日常護体験」を開催していただき、本当にありがとうございました。夢に近づく第一歩となるととても貴重な経験になりました。



阿蘇地域 医療センター

「声かけだって立派な看護」

熊本県立大津高等学校 3年 井川 彩加

私の夢は、人が亡くなるその瞬間までその人がその人らしい生活を送ることができるようにサポートする看護師になることです。今回、私の目指している看護師という職業に対してより理解を深めるために一日常護体験に参加させていただきました。

今回体験をして思ったのは、看護師のする一つ一つのアプローチが看護であるということです。私は今まで看護師の仕事といえば注射をしたり、体を拭いたりするなどの行為しか思い浮かびませんでした。体験を通して会話をすること、食事の好みを知ること、ベッドメイキングをすることなども等しく大切な看護であることに気付きました。また、患者さんの一人一人の食事、形や柔らかさ、水分量、使う食器類などがそれぞれ異なっており、できるだけ口から食べる食事を楽しんでほしいという思いが伝わってきました。

私が今回の体験で1番印象に残ったことは声かけの大切さです。体験の最中に担架に乗る機会がありました。乗ってみると位置が高く、少し怖いと感じました。しかし、看護師さんから曲がり角で「次、右に曲がります。」と言ってもらい、少し安心しました。患者さんも同じ気持ちで、不安な入院生活の中、急に体を触られたりすると驚いたり、嫌な気分になるかもしれないけれど、声かけの一つするだけで安心できるんだと学ぶことができました。

今回の体験で将来自分がどんな看護師になりたいか改めて考えることができ、本当に良かったと思いました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

令和5年度 高校生の一日看護学生体験

参加した
高校生の声

九州看護
福祉大学

「気づきの一日」

熊本信愛女学院高等学校 2年 塚本 ころ乃

私は将来なりたい職業の一つである養護教諭という職業に近づくためにはもっと知識を深める必要があったと思っています。また、パンフレットや、インターネットで調べただけではなく、看護学生を実際に体験し、将来のイメージを膨らませる必要があると思い、九州看護福祉大学の一日看護学生体験に参加させていただきました。体験の中で特に印象に残っているのは、聴診の方法を学習したことです。聴診といえば難しいイメージがあったのですが、高校生向けにゲーム感覚でペアを組み協力しながら楽しく学ぶことができ、とても満足しました。先輩や講師の先生が優しく指導してくださり、リラックスして参加することができました。在学生と話せる機会では、リアルな声を直接聞けてとても貴重な経験でした。看護学生についてより詳しく知ることができ雰囲気の良い交流会でした。将来、看護関係の仕事はより需要が増し、必要とされる仕事ということが実感でき、魅力的に感じました。他にもさまざまな気づきを実際に体験することで感じる事ができたと思います。たくさんの方々のご協力で、高校生にこのような機会を与えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。参加する前よりも夢を叶えるための道が明確になったと思います。貴重な経験となりました。本当にありがとうございました！



天草市立
本渡看護専門学校

「看護で一番大切なこと」

熊本県立天草高等学校 3年 吉岡 文音

一日看護学生体験を終えて私が特に印象に残ったことは、どんな状況であっても患者さんの命を最優先にすることです。

今回は「看護の統合と演習」と「老年看護学方法論Ⅱ」の2つの講義に参加させていただきました。「看護の統合と演習」では、実際にシミュレーションを班で行い、患者さんの理解を深めるために必要な看護技術を教えていただきました。「老年看護学方法論Ⅱ」では、実際に入院している患者さんや車いすの患者さんが陥りやすい褥瘡について学ぶことができました。

その中で、「看護の統合と演習」のシミュレーションを行った講義がとても印象に残りました。この講義で「多重課題」という言葉を初めて知りました。また、一人一人の患者さんに対する適切な看護を限られた時間の中で行うと知り、とても難しいと感じました。患者さんによって状態も症状も違うため、患者さんと看護師のコミュニケーションだけでなく、看護師同士のコミュニケーションも大切だと知ることができました。また、どのような状況でも患者さんの命が一番大切であり、優先順位を考えることが大切だと分かりました。

今回の体験を通して、今まで知らなかった看護の知識や患者さんとの接し方、看護を行う上での考え方などを学ぶことができました。また、看護に対する大切な事だけでなく、これからの生活に応用できるような事も学ぶことができたので、学校生活や日常生活にいかしていきたいです。



令和5年度 高校生の一日看護体験・看護学生体験

受け入れ施設
担当者の声

「ゲーミフィケーションで楽しく呼吸音の聴診を学ぶ」 古堅裕章 九州看護福祉大学

昨年実施した模擬授業「ゲーミフィケーションを用いた心臓の聴診体験学習」において、物語の主人公としてゲーム感覚で演習に取り組めることが好評であったため、本年度は第2弾として「呼吸音の聴診体験」を実施しました。昨年に引き続き聴診の知識・技術を学ぶだけでなく、自分が目指す看護師のような行動ができるようになったと実感できる事を重視し、帰宅後に家族に対して早期発見が必要な呼吸器疾患であるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)についての話し合い(問診)を行うことをゲームのクリア条件に設定しました。

体験後のアンケートでは、「かなり楽しかった:12名」、「まあ楽しかった:1名」。看護に対する興味関心については「強くなった:12名」、「少し強くなった:1名」であり、昨年に引き続き、看護への興味関心を楽しみながら導くことができたと感じています。

また、「自宅に帰り、家族の呼吸器の状態について話し合おうと思うか」についても、「必ず話し合う:7名」、「たぶん話し合う:6名」の回答で、予防医療として人を救う実際の行動を起こす意思を多くの高校生に持ってもらうことができたと感じています。

最終問題は「笛音」と「いびき様音」の混合音の聴診と少し難しい症例でありましたが、高校生達が何度も繰り返し呼吸音聴診を行い、全員がクリアした姿を見て、楽しみながら学ぶってやっぱり大切だと、あらためて実感させていただきました。

「高校生の一日看護体験を開催して」 西 恵美子 くまもと県北病院

当院では7月28日、10名の高校生を迎え、一日看護体験を開催しました。昨年は半日でしたが、今年は新型コロナウイルス感染症が5類に移行した為、一日の体験を実施することができました。午前中は、病院長の挨拶、看護部長による「ようこそくまもと県北病院へ」と題し、病院の専門職・看護部の紹介、病棟においての看護体験・見学、患者実体験としてバイタルサイン測定、ストレッチャーや車椅子での移動体験を行いました。午後からは、AEDの講義と体験、病院内見学ツアー、先輩ナースの「看護を語る会」など、多職種の協力を得ての実施となりました。

最初は緊張して表情も硬かった高校生の皆さんも体験を終えた後は笑顔が見られ、充実したとても良い表情となっていました。最後の座談会で、「普段見ることができない病院の中を見ることができ、裏でも色々な人が働いていることが分かり、良い体験となった」「看護師の仕事は大変だが、笑顔で患者さんに寄り添う姿がかっこよく、すごいと思った」「実際に働いている看護師を見て、やりがいを感じられる仕事だと思った。看護大学に入れるように頑張りたい」「今回の体験を自分の進路選択の一つとして活かしたい」など、前向きな感想が聞け、嬉しく思いました。この体験が将来の職業指標の一助となり、是非、このやりがいのある素晴らしい看護の道に進んで頂ければと思います。

令和5年度 高校生の一日看護体験・看護学生体験 実施一覧

看護体験				看護学生体験	
医療施設(病院)	参加人数	医療施設(病院)	参加人数	実施大学・学校	参加人数
1 熊本市医師会熊本地域医療センター	20	17 山鹿市民医療センター	9	1 熊本大学医学部保健学科看護学専攻	16
2 熊本市立熊本市市民病院	9	18 熊本セントラル病院	8	2 九州看護福祉大学看護福祉部看護学科	13
3 熊本大学病院	35	19 国立病院機構熊本再春医療センター	10	3 熊本保健科学大学保健科学部看護学科	19
4 熊本赤十字病院	58	20 国立療養所菊池恵楓園	4	4 国立病院機構熊本医療センター附属看護学校	44
5 済生会熊本病院	58	21 国立病院機構菊池病院	4	5 熊本労災看護専門学校	13
6 国立病院機構熊本医療センター	33	22 阿蘇医療センター	4	6 上天草看護専門学校	11
7 熊本中央病院	29	23 阿蘇温泉病院	3	7 天草市立本渡看護専門学校	10
8 自衛隊熊本病院	8	24 山都町包括医療センターそよう病院	5	8 熊本看護専門学校	14
9 くまもと成仁病院	8	25 国立病院機構熊本南病院	5	9 九州中央リハビリテーション学院看護学科	15
10 熊本機能病院	15	26 熊本総合病院	17	10 熊本駅前看護リハビリテーション学院看護学科	13
11 青磁野リハビリテーション病院	6	27 熊本労災病院	21	11 熊本市医師会看護専門学校医療専門課程第1看護学科	19
12 くまもと森都総合病院	10	28 水俣市立総合医療センター	14		
13 江南病院	3	29 人吉医療センター	17		
14 くわみず病院	17	30 公立多良木病院	4		
15 くまもと県北病院	10	31 天草市立牛深市民病院	4		
16 荒尾市民病院	4				

	施設数	参加人数
看護体験	31	452
看護学生体験	11	187
合計	42	639

タスク・シフト /シェア

医療機関において医師の働き方改革が進められる中でも、看護師がさらなる専門性を発揮することにより、必要とする人々に医療が安全かつより一層タイムリーに提供できるようタスク・シフト/シェアの取り組みが始まっています。また、タスク・シフト/シェアとして様々な医療関係職種と業務の移管や共同化することで、患者を中心としたチーム医療の水準をさらに上げることを目指しています。今内容はシリーズ第2弾です。次号へも掲載予定です。是非とも、ご覧ください!!



令和5年度

認定看護管理者教育課程

セカンドレベル研修を終えて



看護の質向上を目指す同志と共に学び、成長を感じています。



津田 美希 訪問看護ステーション縁(えん)小島

医療の現場では、早期退院が促進され、医療ニーズの高い在宅療養者が増加しています。そこで私が受講した動機は、医療や在宅サービスの更なる変化に対応していくためには、施設をマネジメントするための基盤作りや課題解決に向けた取り組みに対する実践能力を身につける必要があると考えたからです。

研修を受けるまでは、「場違いではないだろうか」「研修についていけないだろうか」と不安でしたが、徐々に仲間ができたことで不安はなくなりました。

講師の方々は、経験豊富で専門的な知識をお持ちで、私たちの疑問や質問に丁寧に答えて下さいました。また、

グループワークを通して、他の受講生との意見交換や情報共有が出来たことも、学びが深まりました。

統合演習においては、領域の異なるグループメンバーの課題を一緒に考えたプロセスは、広い視野で看護を考える貴重な機会でした。又、メンバーが看護の質を良くすることに真摯に取り組む姿に感銘を受け、自身の励みとなりました。

セカンドレベル研修では、幅広い領域の学びを得たことにより、看護管理者としての思考の成長を感じています。課題レポートは頭を悩ませましたが、楽しく受講ができました。

今回の学びを活かし、常に看護の質の向上をめざすことで、利用者が安心して生活を続けられるよう役割を果たしていきたいと思えます。

新たな視点や知見を得て、実践のきっかけになりました。



高山 洋平 社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院

セカンドレベル研修を受講し看護管理者は、時代のニーズや人材の特性に合わせて、必要な組織改革の方法やデータを多角的な視点で考え、行動する事を学びました。

これまで私は、問題が起こった際に、全体をとらえることができなかつたため、本質を見極められずに解決できなかったことがありました。このような課題に対しセカンドレベル研修で、SWOT分析を用いた組織分析や客観的に物事を捉える広い視野、また労務管理においては法律や社会情勢の変化に対応していくことを知り、問題を概念化するスキルを学びました。

今回講師の方々の豊かな経験を踏まえた講義を全て対

面で聞くことができました。また、先生やメンバーとディスカッションを行うことで看護管理者としての必要な知識や求められる役割について学び、スタッフが理解できるよう自分の言葉で伝えていくスキルの必要性等を感じました。

統合演習のグループワークでは他施設の現状や課題について知ることができ、これまでの自分にはなかった看護管理の視点や新しい知見を多く得ることができました。自部署の課題を様々な視点から一緒に考えたことは、私が問題解決のプロセスを実践につなげるためのきっかけとなりました。

今後は、学んだ知識を活用して課題解決のアプローチ、また、スタッフとの対話を通して、心理的安全性の高い働きを行いたいと思えます。

医療法人 室原会 菊南病院の取り組み

報告 猪本 伸子
菊南病院 看護部長



看護師がさらに専門性を発揮できる体制を構築するためには、まず看護チーム内での各職種の役割、業務の分担の見直しや検討が重要です。特に病棟においては看護補助者との協働を推進しWin・Winの関係性を維持することが必要です。

当院は病床数178床の地域密着型の病院です。地域包括ケア病棟・医療療養病棟・回復期リハビリテーション病棟・介護医療院を有し、職員は看護師101名、介護福祉士18名、看護補助者19名で協働し、看護業務にあたっています。

特に介護医療院28床には看護師5名、介護福祉士6名、看護補助者3名が配置され、喀痰吸引・経管栄養など少ない看護師で医療行為を遂行しなければなりません。そこで介護福祉士6名に喀痰吸引(経口・経鼻・気管切開)、経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう・半固形)行為の研修を受講してもらい、特定行為業務の資格を取得し、病院(介護医療院)も登録喀痰吸引等事業者の登録をすることができました。

夜勤は看護師1名と介護福祉士又は看護補助者1名との2名での勤務体制で資格を取得した介護福祉士が夜勤勤務の時は看護師に代わり、吸引・経管栄養が施行できることで、看護師にとって時間的余裕ができるようになりました。そして何よりも同じ国家資格を持つ介護福祉士にとってもキャリアアップができ自信につながりWin・Winの結果となりました。しかしこのことで書類等が増え、デメリットもありますがタスク・シフトの大きな一歩につながったと思います。

その他のWin・Winのタスク・シフトとして、看護職の人員確保が困難な部分を薬剤補助者として薬局で雇用し教育してもらい、病棟での薬品カートへの配薬、点滴の確認整理をサポートしてもらいたいと提案しています。薬局も人員を確保でき薬剤師が病棟で服薬指導等ができ、薬局・病棟もWin・Winの関係がまたここにも成立すると考えています。

タスク・シフトの交渉には、無理な交渉で部署間関係性を難しくしてしまいます。時には交換タスク・シフトを行いながら、できる限りWin・Winの関係が保てるようにしたいものです。今では看護部長として常にWin・Winタスク・シフトはないか考えながら、病院内を散策するのが日課となっています。



介護福祉士が処置をおこなう様子

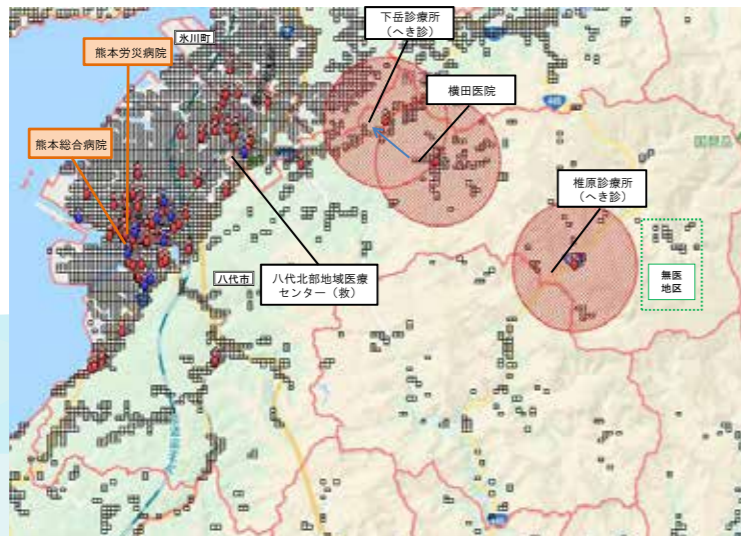
Special content

へき地医療
を考える

Case 1 八代市

へき地医療を支える特定行為看護師の役割

八代北部地域医療センター 看護部長 上村 みき子



八代市の医療圏

(令和元年7月第1回熊本県地域医療対策協議会資料)

八代市のほとんどの人口は市内の中心部に居住し、医療施設や介護施設も集中している。当院は八代市の北側に位置し、八代郡市や周辺の市町村、坂本町から泉町・椎原まで広範囲な医療圏を担当し、へき地医療を支えている。一般病棟59床(うち地域包括病床22床)療養病棟30床、常勤医6名、認定看護師2名、在宅・慢性期領域の特定行為看護師1名が在籍している。

八代の高齢化率は2020年度33.8%で、地域住人へのアンケート調査で「自宅で人生の最後を迎えたい」高齢者が49.4%いる一方で、「家族への負担」が気になるが65.2%見られた。現実的には医療処置や看護ケアが必要な状態では自宅介護も困難、訪問看護・介護施設も市街地周辺に限られ、へき地まではサービスが行き届かないため、住み慣れた地域へ戻れない長期入院患者が多くみられる。

2025年度に向けて地域包括ケアシステムの構築が掲げられ医療と介護の連携強化に取り組まれてきたが、高齢化率がピークとなる2年後を控え、目的達成には隔たりがある。また、2025年度までに日本看護協会は医師不足に備え、特定行為看護師10万人を目指している。しかしその研修施設は市内の公的病院や中核病院に限られ、資格取得後も主に急性期医療の現場で多くが活躍されている。

当院では、医師の数も少なく、自施設の診療も大学病院や地域の開業医の協力を得ながら、日常診療を行っている。訪問診療や週一回へき地診療にも出かけ、医師の負担が大きいのが現状である。

今後は、阿蘇地方のA病院が行っているオンライン診療車の導入や特定行為が行える看護師がへき地に出向いて医療行為を行うことができれば、医師の診療行為の補助や在宅医療現場でその役割は大きく、医師のタスク・シフト/シェアに大いに貢献できるものと考えられる。

現在、資格取得には中核病院へ出向いて研修を受ける必要があるため狭き門となりハードルが高い。当院のような地方の病院でも養成研修施設となれば希望者も多く、その検討を始めたところである。しかし、研修施設となるには、指導者の養成や協力病院への依頼など施設基準をクリアする必要があり課題も多い。特定行為看護師養成制度は、地域医療を支える病院でもっと手軽に資格取得できるようなシステムであってほしいと願う。

Case 2 小国町

へき地医療オンライン診療車について

小国公立病院 総看護師長 河津 紀子

小国町、南小国町からなる小国郷は、熊本県の最北部に位置する山間過疎地域である。約253km²の広大な面積に多数の集落が散在し、小国町の中心部にある小国公立病院を利用するためには、公共交通網の関係で自家用車またはバス・タクシーの利用が不可欠となっている。近年、両町人口の高齢化率は40%を超え、益々高齢化率が進む中、運転免許証の返上、交通費の負担等が原因で医療機関を利用することが困難な住民が増加しつつある。併せて、クリニック数が減少し、地域のかかりつけに多くの役割が集中している。当院の機能再編を進める中で、現存の病院施設では診察室・待合室共に狭く、新たに通信環境等を整備し、診療スタイルを提供することは困難である。少子高齢化の時代を迎え、山間過疎地における地域医療を存続させていくためには、これらの課題に対し早急な対策を講じる必要がある。

当院は小国郷にとって唯一の中核病院であり73の病床と14の診療科をもつ地域密着型多機能病院である。併設施設として老健・訪問看護ステーション・サテライト診療所があり、施設間の連携と協働で二次救急医療、急性期～回復期、在宅看取りまで幅広く担い、住み慣れた地域で安心して生活できる環境を提供している。地域との連携を強化し多機能を維持するための看護師の役割は非常に大きい。医療過疎地で人員不足のため、医療、介護ニーズの需要を満たすには厳しい現状がある。

そこで国の地域活性化策「デジタル田園都市国家構想」の交付金を元に「動く診療室、医療MaaS」を導入することとなった。看護師と医療機器を搭載した車両が地域の公民館を巡回、または在宅患者を訪問し医師は画面を通じたオンライン診療を実現することで、少子高齢化の進んだ医療過疎地の新しい医療の形として提供していく予定である。

まず、目指す方向性としては、山間過疎地における医療機関受診に係る住民負担の軽減と医療サービスの安定した提供を実現する。対面診察や訪問診療の併用による新たな診療スタイルの提供とともに交通の便等により受診をためらっていた住民が外来診療、オンライン診療、訪問診療、入院治療等、医師と相談しながら適切な医療を受けることができるようになる。しかし、高齢者だけではオンライン診療を受けることは困難なことが多く、医療MaaSを使ったオンライン診療の活用が可能となるような環境を整備することで医療へのアクセスの一助になると思われる。

人生100年時代を迎えるにあたり、看護師としてのセカンドキャリアを含めこれまで以上に長いスパンで働き方を考えていく必要がある。知識と経験を生かした地域看護を提供できる環境は無数にあり、これからの看護師の活躍の場を増やすきっかけづくりとして小国郷での医療MaaSを利活用できればと考えている。



12月に完成予定(デザイン案)



小国公立病院サテライト診療所の開所式でテープカットする片岡恵一郎所長(=左端)ら

熊日新聞令和5年6月25日掲載

新たな災害支援ナースの仕組み 始まる



災害支援ナース養成研修が始まりました

令和6年度から新たな国の仕組みとして災害派遣ナースの派遣を行うため、日本看護協会の委託を受け、オンデマンドと集合（演習）による災害支援ナース養成研修を下記のとおり開始しました。

定員80名としておりましたが、受講希望者多数のため、急遽、集合研修の日程を追加し、217名の方に受講いただくこととなりました。集合（演習）研修については、第1回目、第2回目のいずれかで受講いただく予定です。

1. 研修目的

- 1) 災害・感染症等に関する基礎知識・技術を習得する
- 2) 応援派遣の概要を理解し、研修修了者として実際の派遣時に対応できる技能を習得する

2. 研修内容および開催期間

※集合（演習）は、同じ内容で2回開催。いずれかの回にご案内します。

受講形式	内容	日程
講義 (オンデマンド)	【総論】 (120分) ・災害・感染症に係る応援派遣の対応 【災害各論】 (540分) ・災害医療の基礎知識、災害時に求められる看護支援活動 他 【感染症各論】 (540分) ・新型コロナなど新興感染症の基礎知識、新型コロナなど新興感染症患者の治療と観察のポイント 他	【受講可能期間】 令和5年10月14日(土) ~ 12月15日(金)
集合（演習）	【講義】 (60分) ・熊本県における災害・感染症に係る応援派遣時の看護支援活動 ・災害支援ナースとしての心構え 【演習（災害）】 (270分) 【災害時の看護職の活動の実際】 ・熊本県における災害に係る応援派遣時の看護支援活動 ・派遣決定から出発までの準備 ・支援者としての心構え ・グループワークによる机上シュミレーション 他 【演習（感染症）】 (270分) 【感染拡大時の看護職の活動の実際】 ・多職種連携による医療体制について ・感染拡大時の看護職の活動の実際 ・感染拡大・重症化予防に関する基礎知識 他	【第1回目】 令和5年12月21日(木) 9:30 ~ 16:30 令和6年1月16日(火) 10:00 ~ 16:00 【第2回目】 令和6年1月29日(月) 9:30 ~ 16:30 令和6年2月9日(金) 10:00 ~ 16:00

3. 集合（演習）会場

熊本県看護研修センター 3階 大研修室

県知事へ「令和6年度 要望書」を提出しました

要望事項

1. 新型コロナウイルス等新興感染症対策や災害の備えに係る予算の確保
2. 看護職員確保対策等の予算の確保
3. 看護の質向上のための予算の確保
4. 訪問看護総合支援センター設置運営に係る予算の確保
5. 子どもと子育て世代を対象にした地域包括ケア推進に向けた予算の確保
6. 地域包括ケアシステム構築に向けた看護管理者及び行政保健師の連携の推進
7. すべての妊産婦が、産後に必要な産後ケアを受けられる体制整備の推進

離職時の看護職の **届出制度** をご存知ですか

「熊本県ナースセンター」へ離職時の届出をお願いいたします。

2015年10月から看護の資格をお持ちで、離職された方、お仕事をされていない方は、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき、都道府県の「ナースセンター」へ届け出ることが努力義務になりました。

退職をされる方には、届出セット「**看護職を退職される皆さまへ**」を施設を通してお届けしています。

施設でもらわれなかった方は下記のQRコードより届出ください。



届出セット



届出して頂くと熊本県ナースセンターでは、**復職支援(再就業支援研修会)就業相談など、切れ目のない看護キャリアを応援します!**

とどけるん

検索



看護師等の届出サイト



「とどけるん」で検索、
またはQRコードから

熊本県看護協会 熊本県ナースセンター TEL 096-365-7660

令和5年度 ハローワークにおける **看護職の就職相談**

熊本県ナースセンターの相談員が「看護のお仕事相談」をお受けしています。

ハローワークにおいでの際や、ナースセンターが遠い方など、看護の仕事について専門的な相談にも対応いたします。看護の求人情報もご案内しています。

場 所	時 間	11月	12月	1月	2月
ハローワーク熊本	9:00~12:00		1日	5日	2日
		10日	8日	12日	9日
		17日	15日	19日	16日
		24日	22日	26日	
ハローワーク玉名	10:30~15:00	29日	27日	24日	28日
ハローワーク菊池	10:30~15:00	21日	19日	16日	20日
ハローワーク阿蘇	10:30~15:00	1日	6日	10日	7日
ハローワーク上益城	10:30~15:00	14日	12日	9日	13日
ハローワーク宇城	10:30~15:00	1日	6日	10日	7日
ハローワーク八代	13:30~16:00	21日	19日	16日	20日
ハローワーク水俣	10:30~15:00	28日	26日	23日	27日
ハローワーク球磨	10:30~15:00	14日	12日	9日	13日
ハローワーク天草	10:30~15:00	15日	20日	17日	21日

2023年度の会費納入は完了していますか？ ご入金はお早目に！

研修申込システム（マナブル）の会員として登録できる方は、会費が入金済になった方のみが対象となります。研修申込システムに反映するまでの期間は、**会費納入完了の2週間後**が目途です。施設で取りまとめて会費をご入金いただく施設はお早めをお願いします。口座振替の方は申込書提出後、口座振替まで2か月ほどかかりますので、研修申込時点で会費未納入の場合は研修受講料は非会員価格となります。



次年度の「継続のご案内」は順次発送中です!!

9月中旬から会費納入済の方の「継続のご案内」の印字が始まり、9月中旬以降に会員情報変更をされた方の継続のご案内の印字内容は変更前のデータで印字されておりますが、データ上は変更されております。そのため、施設代表者様に一括して送られてきます各会員様宛の封書で“既に退職されている方”の封書も届くかと思えます。お手数ですが、**所属されていない方の方はお早目に熊本県看護協会までご返送**ください。



「口座振替」で会費納入の方 → 2024年会費より初回振替は**2月27日**に変更されます！

理事会開催報告

| 令和5年度 第5回理事会

日時 令和5年9月14日(木) 13:30～
場所 熊本県看護研修センター 第2研修室

協議事項

- 令和6年度熊本県看護協会重点政策・重点事業策定スケジュールについて
- 令和5年度熊本県看護協会役員・支部長・職員研修の講演について
- 看護くまもと第127号 企画案について
- 宿泊費引き上げについて

| 令和5年度 第6回理事会

日時 令和5年10月12日(木) 10:00～
場所 熊本県看護研修センター 第2研修室

協議事項

- 令和6年度熊本県看護協会重点政策(案)について
- 公益社団法人熊本県看護協会電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規定(案)について



徐々に秋らしい気候となり、朝晩は肌寒く感じることも多くなってきました。早いもので今年もあと1ヶ月半となりました。1年が過ぎるのはとても早く毎年“来年こそは！”と出来ないで持ち越すことが年々多くなっています。来年する！ではなく今する！に変われるように努力中です。看護くまもとの表紙の様に季節ごとに素晴らしい景色がたくさんあります。観光地に足を伸ばし景色を楽しむのも気分転換になります。今後も、看護くまもとを通して様々な情報を得て頂けたらと思います。(広報委員会 熊谷 好恵)

看護くまもと 第127号

発行日 令和5年11月10日(金)
発行者 本 尚美
編集者 広報委員会
発行所 公益社団法人 熊本県看護協会
熊本市東区東町3丁目10番39号
TEL 096-369-3203
FAX 096-369-3204

令和5年度 会員納入会員数
15,421名(令和5年11月1日現在)

表紙 山鹿市 康平寺 (撮影：広報委員会 緒方 祥子)